

最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

声をかけるゆう気を持ちたい

横須賀市立田戸小学校

三年 山 脇 誇 子

私はこのまえ、母のすすめで姉とオンラインのワークショップにさんかしました。「ひやまっち」と「きのっぴい」とお話しして、感じたことを書きたいと思います。

二人は目が不自由です。私は目の不自由な人と話したことがないので、どうしたらいいのかわかりません。そうしたら、「ひやまっち」に、声を出してほしいって言われました。でも、オンラインもなれていないし、ゆう気がなくて、私は声を出すことができませんでした。

とちゆうで「ひやまっち」から信号について話がありました。音の出ないしんごうは、目の不自由な人にとって信用できないものだそうです。うちの近所にも音の出るしんごうは二つありますが、ほとんどのしんごうは音が出ません。

「ひやまっち」は、人の足音や車のとまった音を聞いて、しんごうをわたっているのだそうです。それを聞いて、私はすごいなあと思いました。今まで、音は気にしてませんでした。ワークシヨップのあと、しんごうをわたる時、耳で聞いてみました。足音なんてほとんどわからないし、車の音もたくさんします。目の不自由な人は、しんごうをわたるのも大変なことなんだって勉強になりました。

本当は、音のあるしんごうをたくさん作ってほしいけど、すぐには作れないと思います。でも、しんごうはあぶないです。他にもあぶないところはたくさんあると思います。

私のできることで、音のなるしんごうがたくさんできるまで、しんごうの前で、困っている人を見かけたら、まだ一人でははずかしいので、姉やお友達と一緒にゆうきを出して、話しかけたいと思います。なかなか声をかけられないかもしれないけど、ゆう気を百倍にして、頑張りたいです。